

# 古典芸能研究センター リニューアルオープン記念展示目録

場所 古典芸能研究センター二階 展示室  
期間 二〇一四年六月七日～八月八日

## 民俗芸能編 —喜多文庫による ひょうごの祭り—

平成四年、民俗芸能研究者である故喜多慶治氏の民俗学関係資料が本学図書館に寄贈され、喜多文庫と名付けられた。

明治三十四年（一九〇二）生まれの喜多慶治氏は、東京商科大学（現一橋大学）卒業後、日本綿花株式会社に入社し、会社の要職を歴任する。昭和三十年代、ちょうど第一線を退いた頃から民俗学の方面に情熱を注ぐようになる。

喜多氏自身が、昭和三十～四十年代を中心に最晩年まで、日本全国各府県の民俗芸能をつぶさに見てまわったフィールドワークの記録が喜多文庫の全資料である。その内訳は、全国各地の芸能を撮影したスライド九、三八一点、カラーネガ一一、九三九点と白黒ネガ二八、七〇〇点、現像された写真、喜多氏による調査記録のノート等からなる。中には、現在では廃絶もしくは変形した行事・芸能も記録している点でも貴重な資料群である。

平成十七年のコスモス祭で、当時整理途中であった喜多文庫の整理作業途中経過の報告を兼ねて「喜多文庫により ひょうごの祭り（いま・むかし）」という展示を行った。喜多文庫の

写真をベースに、センターで改めて調査を行った際の写真も並べての展示であった。

今回はその展示から、轉法輪寺・日輪寺・鶴林寺・朝光寺の鬼追い行事、伊勢の森神社の梯子獅子、大杉のさんざこ踊りの写真の一部を展示する。  
(川端咲子)

(附記) 喜多文庫の写真は、インターネット上ですべて公開していますので、センターHP内の「喜多文庫民俗芸能資料データベース」からご覧いただけます。キーワードに祭礼名を入れて検索してください。(http://www.suma.kobe-wu.ac.jp/ritai/)

1. 轉法輪寺鬼追 昭和三十七年一月七日撮影 喜多文庫
2. 轉法輪寺鬼追 昭和三十七年一月七日撮影 喜多文庫
3. 轉法輪寺鬼追 昭和三十七年一月七日撮影 喜多文庫
4. 日輪寺鬼追 昭和三十七年一月七日撮影 喜多文庫

5. 鶴林寺鬼追 昭和三十七年一月八日撮影 喜多文庫
6. 鶴林寺鬼追 昭和三十七年一月八日撮影 喜多文庫
7. 朝光寺鬼追 昭和四十二年五月二日撮影 喜多文庫
8. 朝光寺鬼追 昭和四十二年五月二日撮影 喜多文庫
9. 朝光寺鬼追 平成十七年五月五日撮影 喜多文庫
10. 朝光寺鬼追 昭和四十二年五月二日撮影 喜多文庫
11. 朝光寺鬼追 平成十七年五月五日撮影 喜多文庫
12. 朝光寺鬼追 平成十七年五月五日撮影 喜多文庫
13. 伊勢の森神社梯子獅子 平成十七年四月一〇日撮影 喜多文庫
14. 伊勢の森神社梯子獅子 昭和四十六年四月十一日撮影 喜多文庫
15. 伊勢の森神社梯子獅子 平成十七年四月一〇日撮影 喜多文庫
16. 伊勢の森神社梯子獅子 昭和四十六年四月十一日撮影 喜多文庫

17. 伊勢の森神社梯子獅子 平成十七年四月一〇日撮影

18. 大杉さんぎこ踊 昭和四十五年六月十四日撮影 喜多文庫

19. 大杉さんぎこ踊 昭和四十六年八月十六日撮影 喜多文庫

喜多慶治氏調査ノート

第一冊表紙

第二冊 (昭和三十七年一月三日から同十二月十七日まで)

第十二冊 (昭和四十二年五月二日から同九月十六日まで)

## 中世芸能編

能と謡の文化 ～「高砂」を中心に～

日本で最も数多く繰り返し返しウタわれてきたウタ、それらに「高砂」でありましょう。本展示では、「高砂」をテーマに、謡本、注釈書、絵巻、絵画、カルタ、小謡本、洒落謡などを御覧いただきます。

世阿弥作の脇能「高砂」は、古今和歌集仮名序の「相生」の義の解き明かしによって平穏な世の永続を寿ぐ、祝言が主眼

の能ですが、「高砂」の最多歌唱数を支えているのは、こうした世阿弥の作品意図ではなく、この曲を婚礼や松を寿ぐ祝言とする解釈です。

むことり、よめとりのうたひは、第一の祝言なり。高砂のうたひを本とせり。これ、あひおひといふ儀也。

高砂は、松を祝ひたる謡なり。

高砂は、松のめでたき威徳を作りたる能なれば、初春にこれを謡初(うたいぞめ)と号す。

『八帖花伝書』に見られるこのような謡曲解釈は、世阿弥の意図するところではありませんでしたが、この誤解が、「高砂」を日本で最も数多く繰り返し謡われる曲へと育てていきました。

能がどのように理解され、享受され、私たちの生活をかたちづくっていったのか、展示を通じてお感じいただければと思います。  
(大谷節子)

1. 「謡抄」 大本 十冊 刊本 第一冊目

2. 謡抄 中本 十冊 刊本 第一冊目 伊藤正義文庫

3. 謡曲拾葉抄 半紙本 二十冊 刊本 第一冊目

犬井貞恕著 宜義庵忍金空補

明和九年 京 錢屋七良兵衛・鍵屋源兵衛  
大坂 吉文字屋市兵衛 刊 伊藤正義文庫

4. 謡曲拾葉抄 大本 二十冊 刊本 第一冊目

犬井貞恕著 宜義庵忍金空補

明和九年 京 山本長兵衛・橋本常祐 刊

伊藤正義文庫

5. 「福王雪写画」[能画]

卷子本 一卷 写

伊藤正義文庫

6. 謡曲参考鈔 大本 二十二冊(別録一冊) 写本

第一・四冊目 佐久間信満(旭松下露傘) 著

天明六年自序

伊藤正義文庫

7. 「内藤家旧蔵謡曲注釈」 大本 十一冊 写本 第一冊目

伊藤正義文庫

8. 千代田之御表 御謡初 一枚刷 刊 福田初次郎画

明治三十年刊

伊藤正義文庫

9. 謳秘事哥袋 小本 一冊 写本

寛政二年 青地茂左衛門周盈筆

伊藤正義文庫

10. 謡考秘集 半紙本 一冊 刊本

元禄元年 京都 林善兵衛・久保田権右衛門 刊

11. 〔謡道歌集〕 卷子本 一卷 写本  
伊藤正義文庫
12. 〔謡心詞〕 横本 五冊 写本  
寛政十一年 喜多古能序  
伊藤正義文庫
13. 謡かるた 読札・取札共各二〇〇枚 写 内外各百番
14. 〔福王雪吟画「相生松図」〕 一軸 写 福王雪吟今画  
宝曆四年觀世三元章試筆「四海波」  
伊藤正義文庫
15. 便用謡 大本 一冊 刊本 三浦久之丞編  
享保八年 江戸 三浦久之丞 刊 伊藤正義文庫
16. 〔関寺小町免許状〕 一枚物 写  
文政六年 福王茂十郎盛翁(盛充) より平松善右衛門宛  
伊藤正義文庫(平松関係資料)
17. 謡免許目録 半紙本 一冊 写本 福王盛充著  
文化六年奥書 伊藤正義文庫(平松関係資料)
18. 〔堀池宗叱謡本〕 中本(折本仕立) 二番綴四十七冊  
写本 「定家・高砂」の冊 伊藤正義文庫
19. 〔絵入小謡本〕 袖珍本 九冊 刊本 第一冊目  
伊藤正義文庫
20. 謡訓蒙図会 半紙本 十冊 刊本 中村三近子編  
橘守国画 大坂 河内屋太助板 江戸 須原屋茂  
兵衛 他人軒 刊 橘文庫
21. 謡訓蒙図会 半紙本 一冊 刊本 中村三近子編  
橘守国画 享保二十年 大坂 毛利田庄太郎 刊  
伊藤正義文庫
22. 〔明治四年住吉社御神事御能絵入番組〕 一枚刷 刊  
個人蔵
23. 諸流能舞 謡名所競 一枚刷 刊 嘉永元年 日吉刊  
伊藤正義文庫
24. 〔能絵本〕 半紙本 一冊 刊本  
伊藤正義文庫
25. 〔懷玉当流酒宴小謳〕 袖珍本 一冊 刊本  
元禄二年 中野彦三郎 刊 神戸女子大学図書館蔵
26. 小謡寿宴用弁 一枚刷 刊  
宝曆三年 京都 柳田三郎兵衛 刊 伊藤正義文庫

27. [能楽図] 卷子本 一卷 写本 円山応震画

28. 素人謡曲家投票大番付 一枚刷 刊 明治二十二年

大阪毎日新聞社 刊 伊藤正義文庫

29. 謡行烈座敷狂言 横小本 一冊 刊本 浪花散人伝重堂

琴滝序 寛保三年 大坂 安井弥兵衛 刊

伊藤正義文庫

30. [小謡百番] 半紙本 一冊 刊本 天保十二年

江戸 須原屋茂兵衛 大坂 堺屋新兵衛 刊

伊藤正義文庫

31. 当流間仕舞付 横中本 五冊 刊本 第一・五冊目

伊藤正義文庫

32. [能楽図巻] 卷子本 一卷 写本

神戸女子大学図書館蔵

## 手塚亮太郎・貞三関係能楽資料

このほど古典芸能研究センターは、関西能楽界の重鎮と云われた観世流能楽師の手塚（大西）亮太郎の令孫である手塚稔子

氏から、能楽関係資料の寄贈を受けました。

過日、亮太郎が大正八年に建設した大阪能楽殿の詳細な平面図や外観写真などが大阪歴史博物館に寄贈され（平成二十三年十二月二十八日付の朝日新聞夕刊に紹介）、話題を呼びました。稔子氏のものにはほかに亮太郎や嗣子貞三の活動を伝える資料が少なからず遺されていました。これらは後日、能楽学会関西例会第二十回能楽フォーラム（平成二十五年三月三十日開催）で公開され、それが縁となってセンターにおさめられることとなりました。

手塚亮太郎は明治期から神戸に縁の深い人物です。当地には門人も多く、神戸における能の普及に彼は大きな役割を果たしました。大正元年には、大阪能楽殿の創立に先立ち、神戸湊川に地元有力者の協力を得て神戸初の本格的な能楽堂を作っています。

（大山範子）

1. 「習事勤メ扣」 横本 仮綴 一冊 尚忠（手塚亮太郎）筆

2. 「道成寺 白蛇考案」 便箋二枚

昭和二年十一月 公雪（手塚亮太郎）筆

3. 「道成寺 能」免状

明治十八年十二月 観世清孝より大西亮太郎あて

4. 「関寺小町許状」（大正十五年十一月 亮太郎宛観世元滋書状）

卷子（木箱入） 一卷

5. 大西亮太郎手塚改姓挨拶状草稿 大正十二年四月付
6. 「復姓歴史巻」 卷子（木箱入） 一卷 昭和四年五月装巻
7. 「孫へのはなし」 番組各種裏紙仮綴 一冊  
\*亮太郎の考証雑記
8. 手塚亮太郎宛和田神社社司和田陽三書状  
昭和四年二月九日付 一通
9. 加藤貞蔵宛大西亮太郎葉書 大正四年八月廿日付 一通
10. 手塚雅三履歴書 昭和二十三年七月七日付
11. 手塚貞三宛観世左近通達状  
昭和十二年一月十七日付 一通
12. 手塚貞三宛大阪能楽殿顧問依頼状  
昭和十五年二月十五日付
13. 手塚尚研会能会案内状・番組 昭和十六年一月

## 実演参考展示

〔舞楽図巻〕 卷子本 四巻 写本 元文六年 □田益宣写

## 近世芸能編

### 1 浄瑠璃御前物語の世界

近世芸能の一つ「浄瑠璃」の名称は、中世に生まれた『浄瑠璃御前物語』（異称：『浄瑠璃』『十二段草子』など）に由来する。

『浄瑠璃御前物語』は、矢作の宿の長の娘である浄瑠璃姫と、鞍馬山から奥州へ下る途中の牛若丸の恋を描いた語り物であった。やがてこの物語は、テキスト化され、その人気によって多くの関連資料を生むこととなる。岩佐又兵衛の絵巻『浄瑠璃』などはその中でも圧巻の作品である。

『浄瑠璃』が後世に与えた影響は、近世初期から近松時代を経て、近代にまで及んだ。ここでは、浄瑠璃のテキストをはじめ、この物語の影響を受けた作品、名場面を画題とした浮世絵を展覧する。  
(川端咲子、近世芸能編以下同)

1. 奈良絵本(断簡)
2. 新板／十二段さうし(複製) 十四行本 大本三冊  
江戸 本や次兵衛刊
3. 源氏十二だん 絵入り十七行 半紙本 肥前掾正本  
江戸 鱗形屋孫兵衛 刊(推定) 志水文庫

4. 十二段 十行 半紙本 竹本義太夫正本  
近松門左衛門作 京都 山本六兵衛刊 志水文庫
5. 皇月十二段 八行 半紙本 土佐少掾正本  
宝永五年初秋上旬(序) 江戸 木下甚右衛門刊  
志水文庫
6. 四季の障子(しのびの段)と口説(帳台入り) 杉村治兵衛
7. 浄瑠璃御前七度使い 鳥居清長
9. 源氏十二ヶ月之内中 秋笛の段 歌川豊国(三代)
10. 笛の段 一勇齋国芳
11. 牛若丸浄瑠璃姫館忍凶 揚州周延

## 2. 浄瑠璃の本様々

### a 説経浄瑠璃の本

説経は、中世末から近世にかけて盛んに行われた語り物である。近世には、浄瑠璃操りの影響を受けて、三味線を伴奏とするもの、人形操りをももなうものが現れ、それらは説経浄瑠璃とも称される。それにあわせて、説経のテキストが刊行されるようになる。

12. せつきやうおくり(断簡三枚)  
「説経おぐり」(中本)の断簡。表紙、初丁の上半分  
本文一部のみ。\*寛文頃の正本と推定。 志水文庫
13. おぐり判官 説経 九行 半紙本 享保三年刊  
志水文庫
14. 当流小栗判官 十行 半紙本 近松門左衛門作  
京都 山本九兵衛刊 志水文庫
15. 小栗判官車街道 七行 半紙本 竹田出雲・文耕堂作  
元文三年八月十九日 志水文庫
16. あいこの若 説経六段 絵入り十六行 中本
17. しだの小太郎 説経 絵入り十七行 中本  
\*享保頃のものとは推定
18. しゃかの御本地 説経六段 絵入り十七行 半紙本  
天満屋八太夫正本(推定) 江戸 鱗形屋孫兵衛刊
19. 釈尊記(写) 説経六段 九行 大本  
\*18の「しゃかの御本地」とほぼ同文
20. 釈迦の本地 御伽草子 大本三冊

寛永二十年九月 京都 橋屋源兵衛刊 志水文庫

b 六段本浄瑠璃

上方の浄瑠璃は五段、江戸の古浄瑠璃は六段が一般的である。  
ここには、センター所蔵の六段本を展示する。

21. [渡辺知略討] 金平浄瑠璃 六段 絵入り十六行 中本  
江戸 鱗形屋孫兵衛刊
22. 大しよくかん 六段本 絵入り十七行 半紙本  
江戸 鱗形屋孫兵衛刊
23. 日蓮記 六段本 絵入り十六行 中本 正徳四年正月  
江戸 鱗形屋孫兵衛刊 志水文庫
24. 日れん記 六段本 絵入り十六行 小本  
寛文四年正月(推定)
25. [曾我十番切] 六段本 絵入り十六行 中本  
享保五年正月 江戸 鱗形屋孫兵衛刊
26. 紀三井寺由来 六段本 絵入り十七行 中本  
江戸 村田屋刊 志水文庫

27. きさきあらそひ 六段本 絵入り十七行 中本  
宝永四年九月 江戸 鱗形屋孫兵衛刊 志水文庫

28. 義経記 初段 六段本 絵入り十六行 半紙本  
大和少掾正本 京都 正本屋喜右衛門刊(推定)

29. 義経記 四日目 絵入り十六行 半紙本 大和少掾正本  
万治三年(推定) 京都 山本九兵衛刊 志水文庫

30. 義経記 四之巻 六段本 絵入り十七行 半紙本  
土佐少掾正本 元禄二年正月 江戸 鱗形屋刊 志水文庫

31. 義経記 六之巻 六段本 絵入り十七行 半紙本  
土佐小掾正本 元禄二年正月 江戸 鱗形屋刊 志水文庫

32. 太閤記 第一 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の一冊目 志水文庫

33. 太閤記 第二 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の二冊目 志水文庫

34. 太閤記 第七 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の七冊目 志水文庫

35. 太閤記 第八 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の八冊目 志水文庫

36. 太閤記 第九 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の九冊目 志水文庫

37. 太閤記 第十 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の十冊目 志水文庫

38. 太閤記 第十一 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の十一冊目 志水文庫

39. 太閤記 第十二 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の十二冊目 志水文庫

40. 太閤記 第十三 六段本 絵入り十六行 中本  
七冊の内の十三冊目 志水文庫

c 古浄瑠璃の太夫たち

最後のコーナーには、上方で活躍した古浄瑠璃の太夫達の正本を並べる。

35. 都三十三間堂棟由来 十行 半紙本 伊藤出羽掾正本  
大和河内掾作 大坂 平野屋七兵衛刊 志水文庫
36. 都三十三間堂棟由来 十行 半紙本 伊藤出羽掾正本  
大和河内掾作 大坂 平野屋七兵衛刊
37. 雁金文七 七行 半紙本 伊藤出羽掾直正本  
大坂 正本屋平右衛門刊 志水文庫
38. 天王寺彼岸中日 十行 半紙本  
角太夫正本 (節付から推定) 志水文庫
39. つれづれ草 (写) 五行 大本二冊  
外題に手書きで「玉の鱈」 宇治加賀掾自筆写本 志水文庫
40. 丹波与作待夜の小室節 八行 半紙本 加賀掾正本  
近松門左衛門作 京都 山本九兵衛刊 志水文庫
41. 隅田川 八行大本 (献上本) 加賀掾正本 志水文庫

42. 苜蓿桑間筑紫※【車十采】 七行 大本 (献上本)  
並木宗輔・並木文輔作 享保二十年  
大坂 正本屋九左衛門刊 志水文庫
43. 本朝廿四孝 七行 大本 (献上本) 近松半二他作  
明和三年正月 京都 山本九兵衛・大坂 吉川宗兵衛・  
江戸 鱗形屋孫兵衛刊 志水文庫
44. 日本王代記 并神武天皇ノ由来 (写) 九行 半紙本  
明治九年四月に小田這茂が写したもの  
佐渡の説経正本 志水文庫
45. 末武太田合戦 九行 半紙本 小田這茂が写したもの  
佐渡の説経正本 志水文庫
46. 源氏烏帽子折 十行 半紙本 竹本義太夫正本  
近松門左衛門作 京都・江戸 鶴屋喜右衛門刊 志水文庫
47. げんじゑほしをり 十行 半紙本 近松門左衛門作  
題簽に「山本土佐掾」とあるが義太夫正本  
京都・江戸 鶴屋喜右衛門刊
48. 源氏烏帽子折 十行 半紙本 山本角太夫正本  
京都 菊屋七郎兵衛刊 志水文庫

49 源氏烏帽子折 十行 半紙本 山本角太夫正本

京都 谷村清兵衛 刊 志水文庫

50 〔烏帽子折〕 八行 大本（献上本） 義太夫正本

志水文庫